

Ⅱ 項目別評価

項目別評価に当たっては、法人から提出された業務実績等報告書や法人からのヒアリング等を基に、中期計画に記載されている各項目の進捗状況及び成果等について検証を行い、中期目標の達成に向けた法人の事業進捗状況・成果を評価項目ごとに以下の5段階の評語により評価を行った。

評 定	S … 中期目標の達成状況が極めて良好である
	A … 中期目標の達成状況が良好である
	B … 中期目標の達成状況が概ね良好である
	C … 中期目標の達成状況がやや不十分である
	D … 中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である

項目別評定総括表

中期目標を達成するために 取るべき措置	項目 番号	年度評価				中期目標期間評価		評定 説明	備考
		平成 30年度	平成 31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	見込評価		
1 都民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置									
(1) 高齢者の特性に配慮した医療の 確立・提供と普及									
ア 三つの重点医療を始めとする 高齢者医療の充実									
(ア) 血管病医療	1	A	A	A	A		A		74頁
(イ) 高齢者がん医療	2	A	A	A	A		A		74頁
(ウ) 認知症医療	3	A	A	A	A		A		75頁
(エ) 生活機能の維持・回復のための 医療	4	A	A	A	A		A		75頁
(オ) 医療の質の確保・向上	5	B	B	B	B		B		76頁
イ 地域医療の体制の確保									
(ア) 救急医療	6	A	A	A	S		A		76頁
(イ) 地域連携の推進	7	B	B	B	B		B		76頁
ウ 医療安全対策の徹底	8	B	B	B	B		B		77頁
エ 患者中心の医療の実践・患者 サービスの向上	9	B	B	B	B		B		77頁
(2) 高齢者の健康長寿と生活の質の 向上を目指す研究									
ア 高齢者に特有な疾患と老年症候群 を克服するための研究	10	A	S	S	A		S		78頁
イ 高齢者の地域での生活を支える 研究	11	A	A	A	A		A		78頁
ウ 老年学研究におけるリーダー シップの発揮	12	A	A	A	A		A		78頁
エ 研究推進のための基盤強化と成果 の還元	13	A	S	S	A		S		79頁
(3) 医療と研究とが一体となった取組 の推進									
ア トランスレーショナル・リサーチ の推進（医療と研究の連携）									
イ 認知症支援の推進に向けた取組	14	A	A	A	A		A		80頁
ウ 介護予防の推進及び健康の維持・ 増進に向けた取組									

中期目標を達成するために取るべき措置	項目番号	年度評価					中期目標期間評価		評定説明	備考
		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	見込評価	期間実績評価		
1 都民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置										
(4) 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成	15	B	B	B	B		B		80頁	
2 業務運営の改善及び効率化に関する事項										
(1) 地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化	16	B	B	A	B		B		81頁	
(2) 適切な法人運営を行うための体制の強化	17	B	B	B	B		B		81頁	
3 財務内容の改善に関する事項										
(1) 収入の確保	18	B	B	B	A		B		82頁	
(2) コスト管理の体制強化	19	B	B	A	A		A		83頁	
10 その他業務運営に関する重要事項（法人運営におけるリスク管理の強化）										
	20	B	B	A	A		A		84頁	

1 都民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及

評価項目		評定	項目番号
ア 三つの重点医療を始めとする 高齢者医療の充実	(ア) 血管病医療	A	1
	(イ) 高齢者がん医療	A	2
	(ウ) 認知症医療	A	3
	(エ) 生活機能の維持・回復のための医療	A	4
	(オ) 医療の質の確保・向上	B	5
イ 地域医療の体制の確保	(ア) 救急医療	A	6
	(イ) 地域医療の連携	B	7
ウ 医療安全対策の徹底		B	8
エ 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上		B	9

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点など

『血管病医療』

- ハイブリッド手術室を活用したステントグラフト内挿術や経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI/TAVR）等の高度かつ低侵襲な医療の提供
- 急性大動脈スーパーネットワーク及び東京都CCUネットワークへの参画による急性期血管病患者の積極的な受入れ

(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
ICU/CCU稼働率	61.4	60.7	53.4	65.0

※目標値：65%

- 東京都脳卒中救急搬送体制に参画し、超急性期及び急性期の脳卒中治療を脳卒中ケアユニット（SCU）において積極的に実施

(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
SCU稼働率	80.4	85.6	90.1	96.2

※目標値：85%

⇒ 血管病医療について、ハイブリッド手術室を活用した低侵襲な治療や多職種連携による早期リハビリテーションを着実に実施するとともに、急性期脳卒中患者に対してより適切な医療を提供するためSCUの活用を推進するなど、新型コロナ禍においても高齢者の多様な症例に対して低侵襲で効果的な治療の提供に努めたことは高く評価できる。

『高齢者がん医療』

- 高度な技術を活用した正確かつ低侵襲ながんの鑑別診断を推進したほか、早期の胃がんや大腸がん等に対し、低侵襲な治療を推進
- 化学療法や放射線治療等、手術以外のがん治療の着実な実施

(単位：件)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来化学療法実施件数	1,159	1,164	1,148	1,404

※目標値：1,000件

- がん相談支援センターにおいて、院内外のがん患者や家族、地域住民、医療機関等からの生活全般にわたる様々ながん相談に対応

⇒ 低侵襲ながんの診断や高齢者の特性に合わせたがん医療の提供に取り組んだほか、がん相談支援センターにおいて、院内外のがん患者や家族等からの様々な相談に対応するなど、がん医療の充実を図ったことは高く評価できる。

『認知症医療』

- アルツハイマー型認知症との区別が困難な認知症疾患の鑑別に対し技術開発を進めるなど、認知症の診断精度を向上
- 認知症疾患医療センターとして、認知症疾患に関する専門医療相談や研修を実施するとともに、認知症支援コーディネーターと連携し、認知症の疑いのある高齢者に対してアウトリーチ活動を実施

(単位：件)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
専門医療相談件数	14,995	15,340	14,605	14,359
訪問支援件数	7	5	3	4

※目標値：専門医療相談件数10,000件、訪問支援件数5件

(単位：件)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地域における医師等への研修会実施件数	14	13	13	13

※目標値：6件

- 「もの忘れ外来」や、「高齢者いきいき外来」において、認知症に関する専門的医療を適切に提供
- 認知症評価シート（DASC-21）を原則全入院患者に実施し、認知症の早期ケアに努めた。

⇒ 認知症医療について、高度な技術を活用して早期診断の推進及び診断精度の向上を図るとともに、地域の人材育成や地域連携の推進に努め、地域における認知症対応力の向上に貢献していることは高く評価できる。

『生活機能の維持・回復のための医療』

- 個々の患者の状態に応じた早期リハビリテーションの実施や多職種で構成する栄養サポートチーム（NST）による経口摂取支援等に取り組み、患者の早期回復や重症化予防に努めた。
- 高齢者総合機能評価（CGA）に基づき、入院時から退院後を見据えて個々の患者に適した退院支援を行い、早期退院及び退院後の生活の質（QOL）の確保につなげたほか、看護師の退院支援実践能力の向上に取り組んだ。

(単位：回)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
医療従事者向け講演会（回数）	4	2	2	2

※目標値：3回

- 「治し支える医療」を通じて「高齢者医療モデル」の確立に取り組むとともに、普及に努めた。

(単位：日)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
平均在院日数（病院全体）	12.9	12.4	12.4	11.8

※目標値：12.2日

⇒ 急性期患者及び重症患者を積極的に受け入れ、適切な急性期医療を提供するとともに、高齢者に特有な疾患に対応した専門外来の実施や入院時から退院後を見据えて個々の患者に適した退院支援を行うことで、退院後の生活の質の確保に努めていることは高く評価できる。

『医療の質の確保・向上』

- 専門看護師の合格者や認定看護師教育課程の修了者など、看護の質向上に貢献できる人材を育成
- クリニカルパスの適用疾患の拡大に努めるとともに、DPCデータを用いて既存のクリニカルパスを分析・検証するなど、医療の標準化と効率化を推進
 - ⇒ 高齢者に特化した医療の提供に向けて、研修等の計画的な実施や専門資格の取得を推進した。また、高齢者の特性に配慮したクリニカルパスの分析や検証及び見直しを行うとともに、診療実績や臨床指標、DPCデータをホームページに公開するなど、センター医療の透明性の向上に努めている。引き続き、医療の質の確保・向上に努めてほしい。

『救急医療』

- 二次救急医療機関及び東京都地域救急医療センターとして、地域の医療機関と連携しながら、救急患者の受入れを行った。

(単位：人)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
救急患者受入れ数	9,782	9,667	8,683	10,339

※目標値：10,000人以上

- 東京都が運営する新型コロナウイルス感染症患者の宿泊療養施設について、後方支援病院として急変患者の受入れに対応するなど、東京都の公的医療機関としての役割を果たした。
- 救急医療に携わる医師・看護師のレベルアップを図る取組として、感染予防対策研修や急変時対応訓練等を実施
 - ⇒ 地域の医療機関と連携した救急患者受入れ体制の強化や救急医療に関わる職員の育成などに取り組むことにより、二次救急医療機関及び東京都地域救急医療センターとして都民が安心できる救急医療を提供し、東京都の公的医療機関としての役割を果たしたことは高く評価できる。

【地域連携の推進】

- 連携医療機関等への定期的な訪問や、かかりつけ医紹介窓口の運用等により逆紹介を推進するなど、地域連携を推進

(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
紹介率	70.0	65.2	69.1	70.7
逆紹介率	76.1	75.7	77.7	82.2

※目標値：紹介率80%、逆紹介率75%

- 医療関係者向けのセミナーや臨床病理検討会の開催、連携医がWEBを通じて検査を依頼できる地域医療連携システム(C@RNAシステム)等の活用により、地域における疾病の早期発見・早期治療に向けて地域連携を強化
- 高齢診療科を開設し、多職種により老年症候群に対する精査加療、フレイル予防対策に取り組むとともに、地域の医療機関や訪問看護師との連携を強化し、退院後も継続して質の高い医療、介護を受けられる環境を整備
- 板橋区との間で締結した協定に基づき、医薬品及び資器材の保管管理を継続したほか、東京都や板橋区と防災行政無線の通信訓練を定期的を実施
 - ⇒ かかりつけ医紹介窓口の周知に努めて逆紹介を推進するとともに、連携医療機関との定期的な打合せや地域の関係機関と連携した適切な入退院支援を行うなど、地域連携の強化に取り組み、高齢者が地域において安心して医療を受けられる環境の確保に努めたことは評価できる。引き続き、地域の医療機関との更なる連携に努め、紹介率の向上を推進してほしい。

【医療安全対策の徹底】

- 医療安全管理委員会を中心として、標準的な医療から逸脱した事例の収集や情報共有、分析を行うとともに、発生事例を基にした事例検討会を実施するなど、医療安全管理体制を更に強化

(単位：件、%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
針刺し事故発生件数	31	42	23	29
転倒・転落事故発生率	0.35	0.36	0.34	0.37

※目標値：針刺し事故発生件数30件以下、転倒・転落事故発生率0.45%以下

- 転倒ハイリスク状態と評価された患者について、転倒転落カンファレンスシートで評価や対策の立案を実施

(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
院内感染対策研修会開催の参加率	94.1	94.6	100.0	100.0

※目標値：100%

- 感染防止対策チーム（ICT）による病棟ラウンドの確実な実施により感染防止対策を徹底するとともに、地域の医療機関と感染防止対策連携カンファレンスを定期的実施するなど、地域全体で感染症防止対策に取り組んだ。

⇒ 医療安全管理委員会を中心とした医療安全管理体制を確保したほか、新型コロナウイルス感染症本部会議を継続し、病院一丸となって新型コロナ対策に尽力したことは評価できる。
引き続き、医療安全対策の強化に努めてほしい。

【患者中心の医療の実践・患者サービスの向上】

- セカンドオピニオン外来について広報活動を行い、患者やその家族が治療の選択・決定を医療者ととも主体的に行うことができるよう支援

- オンライン面会やインターネット診療予約等のサービス開始、ご意見箱に寄せられた要望や患者満足度調査の結果を踏まえた改善策の検討など、患者ニーズに対して迅速に対応

(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入院満足度	91	89	90	89
外来満足度	81	83	87	-

※令和3年度は、コロナ禍のため外来満足度調査を実施せず

※目標値：入院満足度91%、外来満足度84%

⇒ 新型コロナウイルス感染症流行下におけるPCR検査や抗原検査後の直接面会やオンライン面会の実施、患者の意見等に対する環境改善への取組など、患者サービスの向上に努めたことは評価できる。
引き続き、患者満足度の向上を目指し、患者中心の医療の実践と取組状況の検証に取り組んでほしい。

(2) 高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

評価項目	評価	項目番号
ア 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究	S	10
イ 高齢者の地域での生活を支える研究	A	11
ウ 老年学研究におけるリーダーシップの発揮	A	12
エ 研究推進のための基盤強化と成果の還元	S	13

【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点など

『高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究』

- 世界で初めて、老化細胞を誘導することで、膵臓がんの増殖と浸潤を抑えることが可能であることを明らかにするとともに、老化細胞死誘導薬の併用による画期的な治療法の可能性を示した。
- 咀嚼により大脳皮質の血流量が増加し、認知機能の向上などの作用を果たすこと、また、咀嚼をイメージするだけでも同様の効果が得られることを明らかにした。
- 筋間質の間葉系前駆細胞の加齢変化がサルコペニア発症の一因となることを明らかにし、今後のサルコペニアの予防・治療法開発に貢献
 - ⇒ 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するため、特に高齢者ががんの中でも膵臓がんにも有効な新たな治療法を発見したほか、哺乳動物で新規に発見された糖鎖修飾分子が、筋疾患だけでなく他の老化関連疾患に関与する可能性を見だし、老化関連疾患に対して知見を与える成果を出したことは大いに評価できる。

『高齢者の地域での生活を支える研究』

- 大都市における認知症支援体制のモデル開発に向けて、住民や行政との信頼関係の醸成、評価・検証等を行い、地域ケアモデルの構築及びそれに続く社会実装の知見を得た。
- 全国高齢者パネル調査のデータを用いて、地域在住の日本人高齢者全体のフレイル割合を初めて明らかにし、フレイル予防に関する施策の評価や研究の基準値等となり得る知見を示した。
- 独居高齢者におけるリスク要因について調査を行ったほか、新型コロナ流行下における社会的孤立について調査を行うなど、孤独・孤立に対する知見を示した。
- レセプトデータを用いた分析により、介護保険施設における医療専門職配置による再入院の予防効果、多疾患併存による要介護化・死亡リスクの増加、歯科受診による全身疾患の急性発症リスクの予防効果及び退院直後からのリハビリサービス利用による要介護重度化の予防効果を明らかにした。
- 東京都や自治体と連携し、「高齢者の健康づくりに資するスマートウォッチ等デジタル機器活用事業」を開始した。
 - ⇒ 高齢者の地域での生活を支える研究として、高島平地区を拠点として総合的研究を行い、国際誌への発表を行うなど地域ケアモデルの構築に貢献したほか、フレイル予防や高齢者の就労促進に係る研究を推進してきたことは高く評価できる。

『老年学研究におけるリーダーシップの発揮』

- 高齢者ブレインバンクの新規登録を着実に進め国内外の機関とネットワークを構築し、病理組織リソースセンターとして国内外の研究の発展に貢献
- 次世代医用技術として期待されるAI・ICT、ロボット技術などの社会実装に向けた研究開発において、「認知症未来社会創造センター」や、日本医師会と連携した「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」などのプロジェクトを新規に開始し、老年学研究においてリーダーシップを発揮している。
- 米国老年学会、日本老年医学会をはじめ、国内外の学会に積極的に参加し、研究成果の発表を着実に実施

(単位：件)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
論文発表数	739	672	762	868
学会発表数	1,707	1,578	1,095	1,266

※目標値：論文発表数600件、学会発表数1,200件

(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
科研費新規採択率	28.8	37.9	31.9	37.6

※目標値：33%

⇒ ブレインバンク生前登録例の中で、アミロイドPETと病理対比について実証検証を行い、学会発表して学会賞を授与されたほか、日本医師会と連携し新規プロジェクトを開始する、所内研究討論会等の開催により若手研究者の育成を図るなど、老年学研究においてリーダーシップを発揮してきたことは高く評価できる。

『研究推進のための基盤強化と成果の還元』

- 研究全般を推進する基盤を強化するために研究支援組織「健康長寿イノベーションセンター(HAIC)」を立ち上げ、保有する知的財産の管理・活用のため、新たにクラウド型特許データベースを活用した知的財産管理業務委託を開始する等、センター全体の良質な知財創出を継続的に推進したことで、特許新規申請件数や知財収入の実績を伸ばした。また、ワンストップ窓口を新設し、企業・大学・自治体等との連携の際、研究立案の早期から契約相談を受け付け、秘密情報や研究成果の保護など支援体制を整備

(単位：件)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
特許新規申請件数	6	13	15	17

※目標値：7件

- 外部評価委員会を通じて各研究成果や実現可能性等について評価を受けることで、より効率的・効果的な研究活動を推進し、外部資金獲得金額を伸ばした。
- 厚生労働大臣の認定を受けた臨床研究審査委員会を設置し、都立病院等からも審査業務を受託するなど、臨床研究に対する信頼を確保
- 定期的な講演会の開催や研究所NEWSの発行、積極的なプレス発表、YouTube動画などにより、研究所の研究成果や取組について都民へ普及

(単位：回/人)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
老年学・老年医学公開講座	4/2,828	4/3,499	0	3/12,906
科学技術週間参加行事	1/330	1/346	0	1/13,000

※令和3年度はYouTube動画の再生回数

※目標値：老年学・老年医学公開講座4回、科学技術週間参加行事1回

⇒ 研究推進のための基盤強化と成果の還元のため、設置された臨床研究審査委員会が迅速審査可能になるよう厚生労働省から認定を受けたほか、ワンストップ窓口の新設により、企業・大学・自治体等との連携の際、研究立案の早期から契約相談を受け付け、秘密情報や研究成果の保護など支援体制を整備したことは高く評価できる。

(3) 医療と研究とが一体となった取組の推進

評価項目	評価	項目番号
ア トランスレーショナル・リサーチの推進（医療の研究の連携）	A	14
イ 認知症支援の推進に向けた取組		
ウ 介護予防の推進及び健康の維持・増進に向けた取組		

【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点など

『医療と研究とが一体となった取組の推進』

- 「健康長寿イノベーションセンター(HAIC)」を中心として新たな治療法の開発や実用化が見込まれる研究に対して資金及び研究進捗、出口戦略コンサルテーションを行い実用化研究を重点支援するとともに、第三期中期計画に掲げる老年学・老年医学に係る高い研究成果の創出を支援

(単位：件)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
TOBIRA研究発表数	10	11	0	0

※目標値：(講演・ポスター発表) 10件

- 認知症高齢者等を地域で支える支援体制を構築するため、認知症サポート医や看護師等を対象とした研修を実施するほか、区市町村、島しょ地域や檜原村での研修、活動支援も実施

(単位：件、人)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
認知症支援推進センターの研修開催件数	15	15	15	17
(人数)	1,999	1,798	1,539	1,659

※目標値：17件

- 令和2年度に創設した「認知症未来社会創造センター(IRIDE)」において、将来的な社会還元を見据えた取組として、センターが保有するビッグデータを活用した認知症研究のプラットフォーム「TOKYO健康長寿DB」の構築や、AIによる認知症診断支援システム等の開発に関する研究を実施

- 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター事業として、介護予防に加えてフレイル予防についても、普及啓発や人材育成を促進するとともに、フレイル外来において地域の総合的なフレイル対策を立てたことで、東京都の介護予防施策に貢献

⇒ コロナ禍においても、TOBIRAを活用し柔軟な研究開発を行い実用化に貢献したこと、IRIDEを活用して各種取組を実施し、認知症支援の推進をしたこと、介護予防に加えてフレイル予防についても、普及啓発や人材育成を促進し、区市町村の活動支援を行うとともに、都の介護予防策に貢献したことは高く評価できる。

評価項目	評価	項目番号
(4) 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成	B	15

【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点など

- センターの認定看護師・専門看護師による意見交換会の開催や専門相談窓口での相談受付を通して、地域の訪問看護師との連携を強化し、高齢者の在宅医療を支える人材の育成に貢献

- 医師や研究員の大学等への派遣、医学生・研修医を対象とした高齢医学セミナーの開催、連携大学院や他大学等からの学生の受入れ等を通して、次世代の高齢者医療・研究を担う人材の育成に貢献

⇒ 地域の訪問看護師等への支援を通じて地域の専門人材の育成に取り組むとともに、研修生や学生の受入れなどを行い、今後の高齢者医療・研究を担う人材の育成に貢献したことは評価できる。今後も、地域の医療・介護人材の育成に更に取り組んでほしい。

2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

評価項目	評定	項目番号
(1) 地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化	B	16
(2) 適切な法人運営を行うための体制の強化	B	17

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点など

『地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化』

- 医療情報戦略課を中心として、診療情報や財務情報等のデータに基づく経営分析を行い、入退院支援の強化など診療報酬改定等を踏まえた経営戦略を検討

- 職員提案による新型コロナウイルス感染症拡大防止やコロナ禍での経営改善に向けた取組の実施
(単位：件)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
職員提案制度提案数	20	14	5	16
職員提案制度取組数	2	3	5	5

※目標値：取組数5件

- インターネット予約サービスの開始や医師事務作業補助者の積極的な活用により、患者サービスの向上、医師の事務負担軽減を図った。

- 看護師に加えて、事務・メディカルについても、専門資格手当や指導手当、研修講師手当などの特別対策手当を新たに創設するなど、人材育成・定着対策に取り組んだ。

(単位：日)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
有給取得平均日数	8.3	9.0	11.3	12.6

※目標値：10日

⇒ 今後の病院経営を見据えた経営戦略の検討に取り組むとともに、職員提案制度の活用やインターネット予約サービスの開始、医師事務作業補助者の積極的な活用等により、業務の改善・効率化と患者サービスの向上の両立を推進したことは高く評価できる。

『適切な法人運営を行うための体制の強化』

- 法人の業務活動全般にわたって内部監査を行うとともに、監事、会計監査人と連携し、指摘された事項や改善を求められた事項に適切に対応するなど、法人運営の透明性及び健全性の確保に努めた。

- 全職員を対象に、医療法をはじめとする関係法令や高齢者医療及び研究に携わる者の行動規範と倫理に係るコンプライアンス研修を実施

- 法人において雇用した保険指導の専門家の指導により、職員に対するカルテ記載内容の突合作業訓練を実施するなど、適切な保険請求に向けた取組を強化

⇒ 適切な保険請求に向けた取組や研究活動の不正防止に向けた取組の推進など、職員の法令遵守・倫理の徹底に取り組んだことは評価できる。

引き続き、コンプライアンス研修の着実な実施など、内部統制の強化に向け、継続した取組が求められる。

3 財務内容の改善に関する事項

評価項目	評定	項目番号
(1) 収入の確保	B	18
(2) コスト管理の体制強化	A	19

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点など

『収入の確保』

- 診療報酬改定に伴うクリニカルパスの見直しや病床の一元管理等を通じて救急患者の積極的な受入れや新規入院患者を確保

(単位：人)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
新規入院患者数	12,605	12,470	10,552	11,337
初診料算定患者数	16,030	16,162	15,231	17,873
紹介患者数	12,936	13,913	13,153	13,731

※目標値：上から12,100人、16,700人、14,300人

(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
病床利用率(病院全体)	87.2	83.0	70.4	72.1

※目標値：78.9%

- 新たな施設基準の取得のほか、施設基準等管理部会を新設し、施設基準に関する要件等を組織的かつ定期的に確認

(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
査定率	0.33	0.37	0.27	0.26

※目標値：0.3%以下

(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
未収金率	0.76	0.66	1.07	0.96

※目標値：1.0%以下

(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
経常収支比率	97.4	94.7	100.9	116.4
医業収支比率	82.0	79.3	74.6	82.8

※目標値：経常収支比率96.6%、医業収支比率84.6%

- 文部科学省や厚生労働省などの競争的資金への応募や健康長寿イノベーションセンター(HAIC)を中心とした共同研究・受託研究を推進し、外部研究資金の積極的な獲得につなげたほか、研究成果の実用化に向けた「職務発明審査会」を開催し、新規特許出願につなげた。

(単位：件、千円、%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
外部研究資金総獲得件数	270	270	310	318
競争的外部資金(※)獲得金額(一人あたり)	8,471	8,351	8,948	8,977
共同・受託研究等実施件数	56	59	61	70
科研費新規採択率【再掲】	35.7	28.8	37.9	31.9

※目標値：上から230件、6,500千円、65件、33%

⇒ 診療報酬改定に伴うクリニカルパスの見直しや新たな施設基準の取得、外部研究資金の積極的な獲得など、収入の確保に努めたことは評価できる。
引き続き、医業収入の一層の確保が求められる。

『コスト管理の体制強化』

- 診療材料及び医薬品について、ベンチマークシステムを活用し納入業者と価格交渉を行い材料費等を抑制。また、大型の委託契約について業務内容の見直しを進め、委託費等のコスト管理を推進
(単位：%)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
材料費対医業収益比率	29.1	30.8	31.9	29.9
後発医薬品使用割合	87.0	87.8	84.8	88.0

※目標値：材料費対医業収益比率 30.3%、後発医薬品使用割合 85%

- 病院運営会議等において、診療科別原価計算結果を定期報告し、各診療科に収支指標を継続発信するとともに、経営戦略会議において法人の経営実績や課題を共有しコスト管理や収益性の意識向上を図った。あわせて、各科ヒアリングを通じて各診療科が収支改善へ行動目標を作成し、収益の改善に向けた取組を推進

⇒ 材料費、医薬品費及び委託費等の見直しを図り、コスト管理を推進したほか、診療科別原価計算の分析等により、経営意識向上と改善活動を推進し、収支改善に努めたことは高く評価できる。

10 その他業務運営に関する重要事項（法人運営におけるリスク管理の強化）

評価項目	評定	項目番号
	A	20

【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点など

- 情報セキュリティ・個人情報保護合同研修をeラーニング形式にするとともに研修内容を振り返ることができる環境を整備し、受講率100%を達成

（単位：％）

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
研修参加率	70.0	93.0	100.0	100.0

※目標値：100％

- 職員の健康管理及び安全な職場環境の確保のため、ストレスチェックやハラスメント防止対策を継続実施し、事務部門のノー残業デーなどの取組も実施
- 令和2年度以降の新型コロナウイルス感染症の流行下において、機動的な経営判断や弾力的な予算執行をより一層推進することで、病院と研究所の連携によるPCR検査体制を迅速に整備するなど、法人事業を継続
- 新型コロナウイルス感染症入院重点医療機関及び新型コロナ疑い救急患者の東京ルール参画医療機関として受入専用病床を確保するとともに、都の設置する宿泊療養施設やワクチン大規模接種会場等へセンターの看護師・薬剤師・臨床工学技士を派遣するなど、公的医療機関としての役割を果たした。
- ⇒ 情報セキュリティや個人情報保護等に係る取組の実施や、コロナ禍における職員へのサポートの実施及び危機管理体制の確保並びに公的医療機関の役割を果たしたことは高く評価できる。引き続き、安定的に業務を行うため、組織全体でリスク管理に取り組んでほしい。